

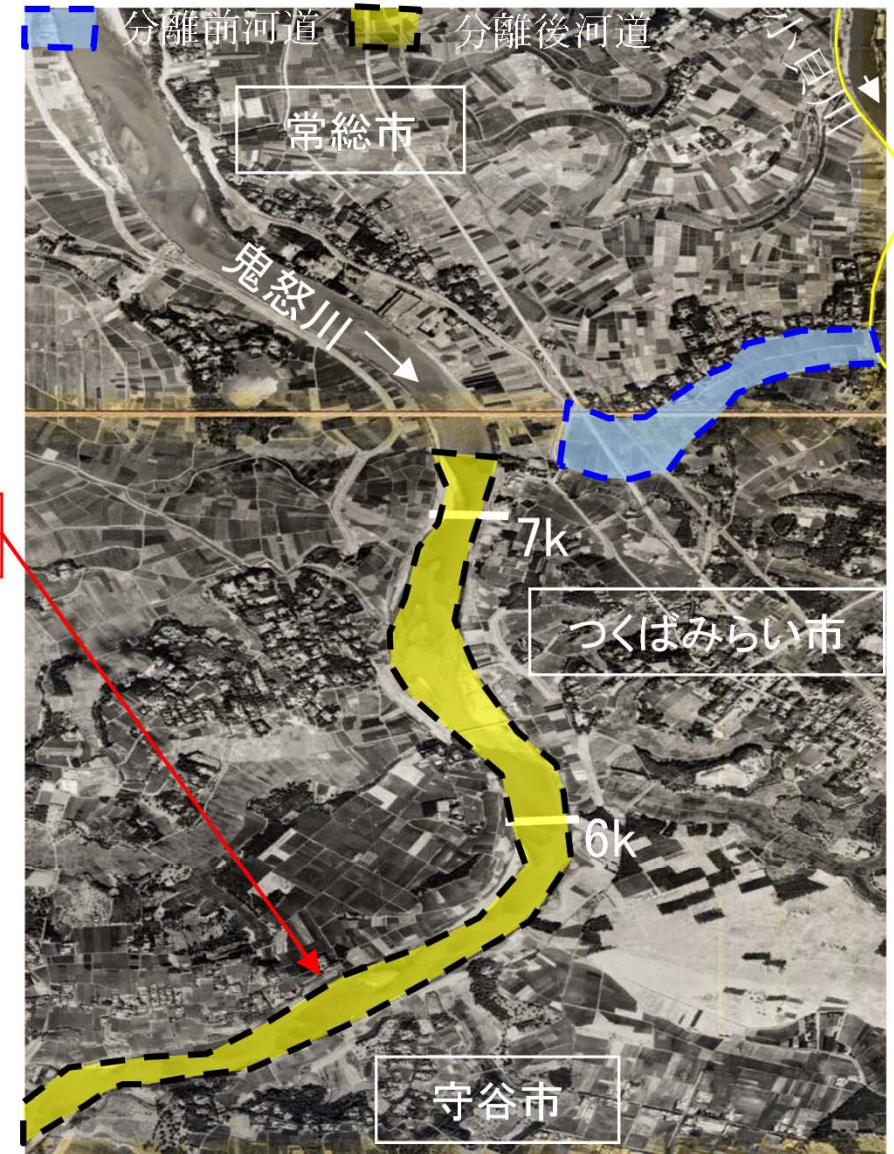
補足説明

平成27年12月4日

国土交通省 関東地方整備局

鬼怒川・小貝川の分流

- 洪水から地域を守り、新田開発を行い、当時の輸送の主力である舟運を確保するために1,600年代に台地部を開削し人工的に鬼怒川と小貝川が分離され現在の河道の姿になった。



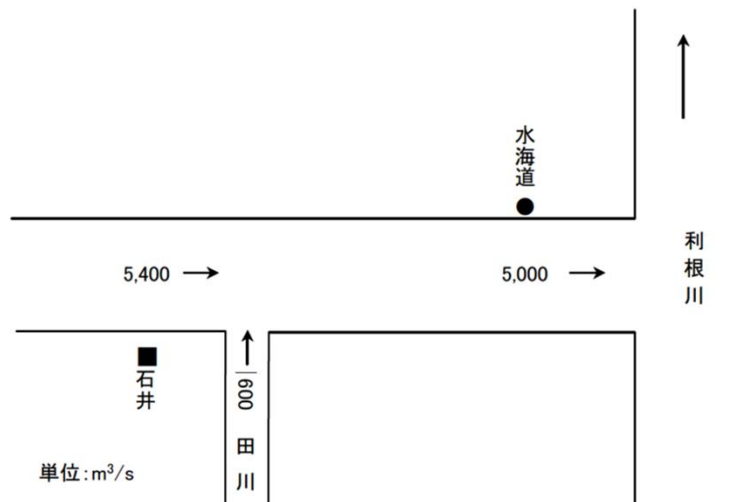
利根川水系河川整備基本方針(鬼怒川)の概要

河川整備基本方針

- ◆ 河川整備基本方針の計画規模は、1/100である。
- ◆ 鬼怒川においては、既設洪水調節施設の掘削及び効果的な操作ルールを採用による治水機能の向上を図るとともに、洪水調節施設を整備する。堤防の新設・拡築、河道掘削、治水上支障となる堰・橋梁等の改築による河積の増大、護岸等の整備により計画規模の洪水を安全に流下させる。
- ◆ また、田川合流点付近から上流側の広い河道と霞堤等を活用した遊水機能を確保できるよう、河道を適切に維持管理する。

河川整備基本方針の流量配分

- ◆ 基本高水ピーク流量は、基準地点石井において $8,800\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち流域内の洪水調節施設により $3,400\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、河道への配分量を $5,400\text{m}^3/\text{s}$ とする。
- ◆ 計画高水流量は、石井において $5,400\text{m}^3/\text{s}$ とし、河道低減量及び田川等の残留域の合流量を見込み、水海道地点において $5,000\text{m}^3/\text{s}$ とする。



河川整備基本方針の計画流量配分図

上流部での洪水調節

- ◆ 上流では、基本方針で位置付けられている4ダムが完成済み。
- ◆ 五十里ダム、川俣ダム、川治ダム、湯西川ダムにより洪水調節を実施



侵食対策

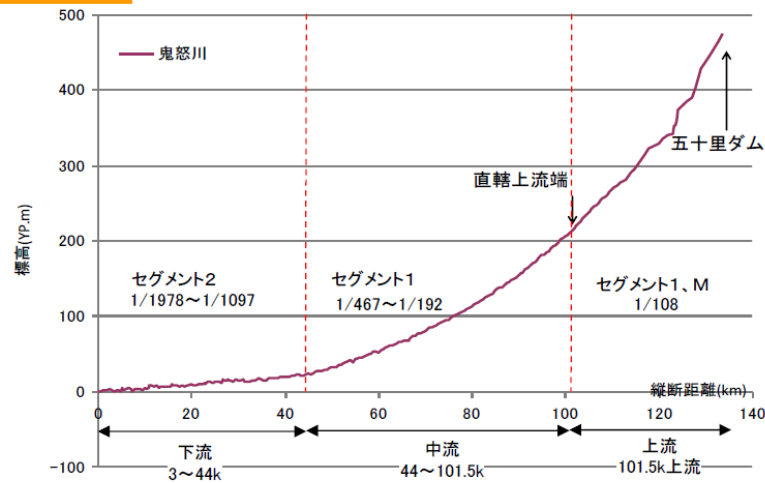
- ◆ 出水により河岸侵食が発生。河岸侵食対策等が必要である。



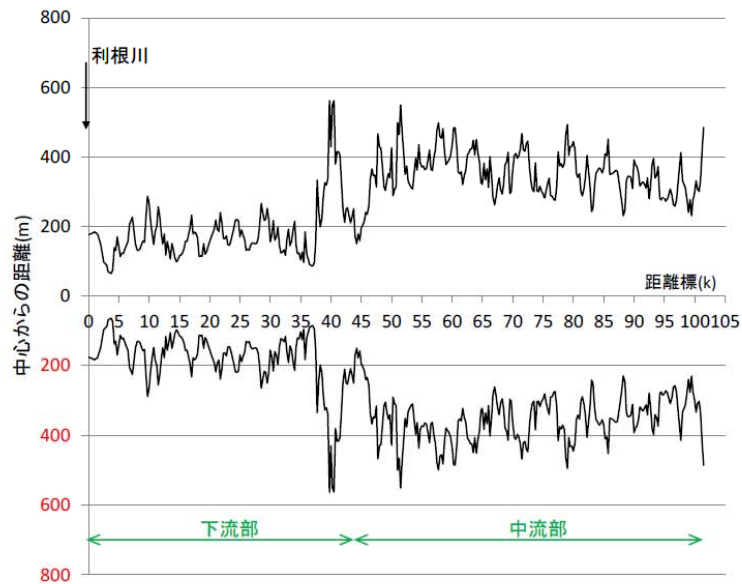
鬼怒川の治水対策(河道特性)

- 44km付近に河床勾配の変化点があり下流側がセグメント2、上流側がセグメント1である。
- 利根川合流点から37kmまでの川幅は約300m、37kmより上流は約700mである。
- 広い河道の遊水機能を維持できるよう、河道を適切に維持管理する。

河床勾配

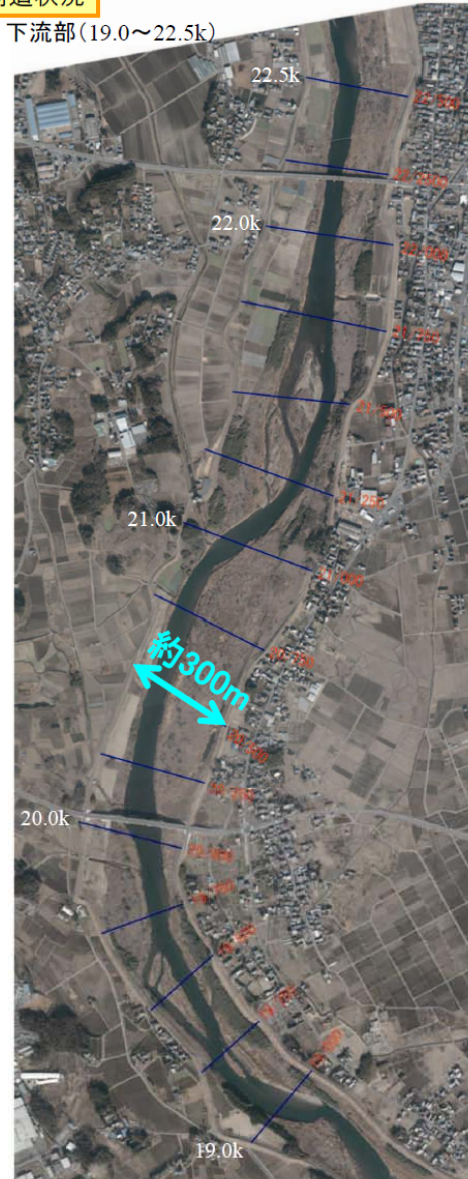


川幅縦断面図



河道状況

下流部(19.0～22.5k)



中流部(74.5～78.0k)

H25.1撮影

